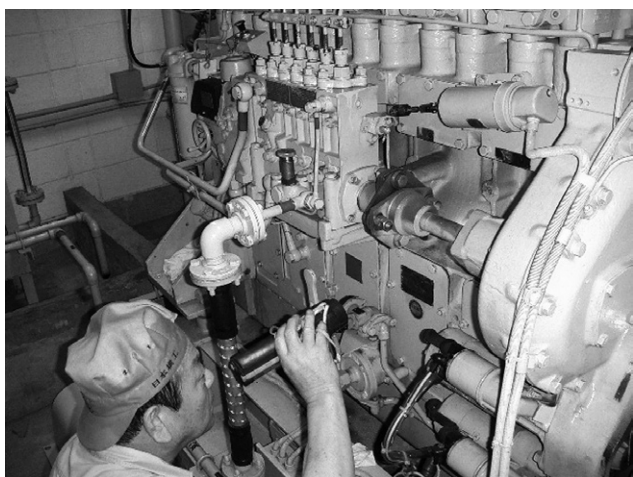


発電設備の艤装、施工、保守の専門会社 「消音器・燃料タンク類」の販売にも注力

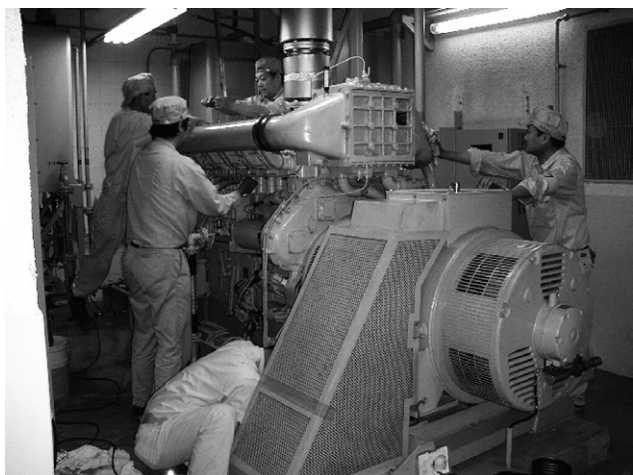
日本機工株式会社(東京都港区)

今回は、自家発電設備に関する設計・組み立てから据付工事、メンテナンスまで一貫して自社で手掛ける「日本機工株式会社(東京都港区芝大門2丁目10-1、☎03-3436-6521、八箇 真佐之・代表取締役社長)」取材した。同社は発電設備の設置工事において「関東工事3社」と謳われる名門企業の一角を占めている。また、発電設備の付帯設備として、「燃料タンク類」や、コンパクトで最高水準の消音性能を備える「発電設備用消音器」の開発メーカーとしても周知知られている。

さらに、内発協理事会社として協会活動にも積極的に取り組むなど自家発業界に対する功績も大きい。創立以来、長年わたり、発電設備の導入促進に努めるとともに、同設備の超低騒音化に向けた周辺機器の自社開発を推進し、設置先の周辺環境の改善にも貢献し続ける「日本機工」の取り組みについて紹介する。



ディーゼルエンジンの点検整備



ディーゼル発電装置の点検整備

創業の経緯

日本機工は、電気工事及び機械器具設置工事を事業目的として、東京オリンピックが開催された1964(昭和39)年11月10日に創立された。

創立者は、内発協の常任理事を務めた故・木原今朝一氏。木原氏は群馬県生まれで大阪育ち。終戦間際まで学徒動員により、大阪の久保田鉄工(現・株式会社クボタ)でエンジン製造に従事していたという。戦後、そのご縁で久保田鉄工に入社し、関西地区を中心に営業マンとして活躍していた。その後、東京転勤を命じられ、関東地区での同社のシェア拡大に貢献していった。

ある時、取引先である総合建設業最大手より、『特定エンジンメーカーの系列という従来の枠組みにとらわれず、幅広い顧客ニーズに応じ様々なメーカーのエンジンと発電機を組み合わせた自家発電設備の艤装、施工、保守を担う会社を立ち上げてくれないか』との打診を受け、木原氏は相手の気概に呼応して起業を決意したという。現在の八箇社長は3代目になる。八箇社長は課長時代の1994年(平成6)年5月に『優秀施工者(建設マスター)建設大臣顕彰』を授与されている。

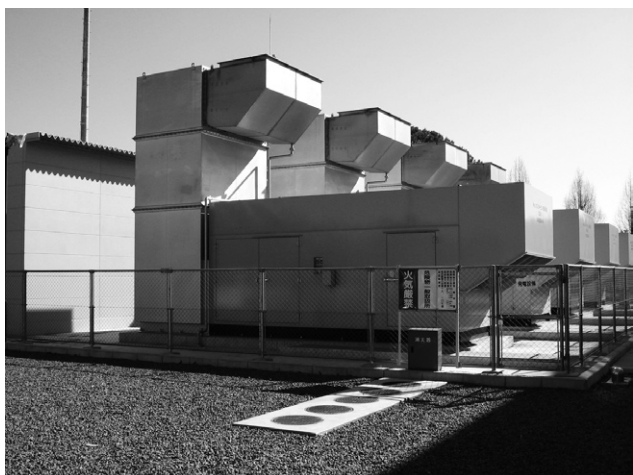
社は『技術とサービスこそわが社の命なり』。換言すれば、「品質は人が命。会社においては、優秀な人材を確保育成することも良質なものづくりをユーザーに提供していくための重要な要件である。ものづくりに携わる従業員の技術力と意欲が製品の品質力に結びつき、会社の受注力を決定する」ということであろう。

会社の変遷

日本機工は、1965(昭和40)年8月の組織改革により、「株式会社」となった。その後、業務拡大に伴い、大阪万博が開催された1970(昭和45)年4月、埼玉県内に「川口工場」を開設した。しかし、都市計画の区画整理により、1973(昭和48)年3月に同工場を移転することとなったため、その代替工場として、現在の埼玉県久喜市栗橋東6丁目19-8に「栗橋工場」を新設した。なお同社は2001(平成13)年



代表取締役社長 八箇 真佐之 氏



3,000kVA × 4基のガスタービン発電装置の設置先



蓄電池の内部抵抗の測定作業



自社開発した4,500ℓの燃料タンク

9月25日付で、JIA - QAセンターの審査登録制度に基づく品質マネジメントシステムに関する国際規格「ISO 9001」を取得している。登録範囲は(1)自家用発電装置の構築、据付工事、保守、付帯設備の施工(2)自家用発電設備に関わる電気工事の施工とされている。

高度な構築力による一品生産

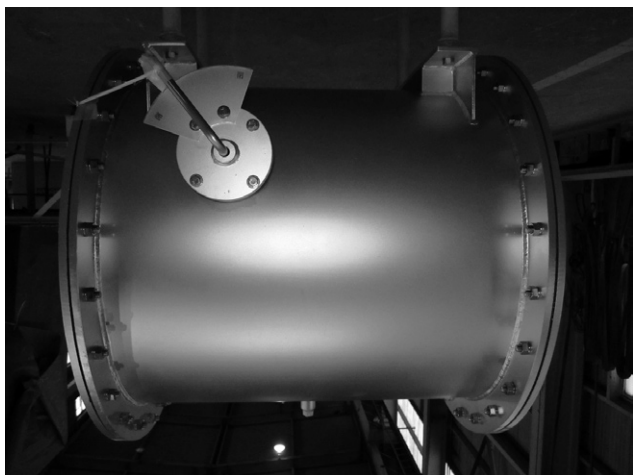
日本機工の「自家用発電設備の構築力及び施工力」には定評があるが、発電設備の超低騒音化を実現できる同社の「消音器」も高い品質性を備えており、幅広いユーザーの間から厚い信頼が寄せられている。現在、日本機工の消

音器にはいずれも円筒型の「NH・NM・NS」の3つのシリーズがある。特長として、「小型・軽量・小さい排圧ロス」の3点があげられる。

『発電設備に弊社の消音器を装着した場合、装着しない場合の通常騒音レベル65dBを55dB以下にまで低減できる。』(八箇社長)という。同社が創業以来、消音器の自社開発を通じて培ってきた特殊技術の蓄積の賜物であろう。自家発電設備の騒音レベルを55dB以下にまで低減できるという優れた超低騒音仕様の「日本機工ブランドの消音器」に対しては電機メーカーからの注文が多いという。

消音器に加え、日本機工が自社開発を進めてきた発電設備用の「燃料タンク類」についても高い耐久性を誇っている。自家発電設備を多数設置している通信会社のデータセンターなどでは、日本機工製の発電設備とあわせて、「日本機工仕様のタンク類」も積極的に導入が図られている。今後も日本機工では、消音器とタンク類の販売を推進していく。

日本機工の製品が幅広い顧客から多くの支持を集めてきた最大の理由は、高度な構築力と施工力に基づく「高品質な一品生産」方式にある。顧客から求められるあらゆるニーズに対応し続けてきたことは創立以来、これまでに小型～大型までの一千台を超える発電設備の納入実績が証明している。同社は自家発電事業のオールラウンドプレーヤーといえる。引き続き、同社は構築力と施工力を向上させる組織体制を強化し、全エンジンメーカーの中から顧客の要求にマッチした原動機を効率的に発電機と組み合わせて高性能な自家発電設備の生産・販売に注力していく。



排気逆止弁



排気消音器 (NM-300、減衰量35dB)